

038

地域住民が楽しみながら防災・減災、まちづくりに参加できる仕組みづくり

取組主体

矢田学区連絡協議会

従業員数

想定災害

実施地域

—

全般

愛知県

・地域内の住民が誰でも参加でき、話し合いを重ねる仕組みをつくることで、防災・減災まちづくりを主体的に推進する。参加する住民が楽しみながら力を合わせて地域防災力を向上させる。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

地域住民が楽しみながら力を合わせて、防災・減災まちづくりを推進

- ・愛知県名古屋市内大曽根駅の東側に位置する矢田学区は、人口約 13,000 人、世帯数約 7,000 世帯の活気にあふれた地区である。矢田学区連絡協議会は、町内会及び消防団や福祉推進協議会等の各種団体で構成された組織である。「防災」、「防犯」、「ふれ愛」、「にぎわい」、「ICT」を 5 本柱として、創意と活力に満ちたまちづくりを目指している。
- ・矢田学区では、平成 24 年度から「防災・減災」を活動の柱の一つに据え、総合防災訓練や避難所運営訓練を重ねてきた。しかし、活動への参加者が固定化される傾向が見られたため、防災・減災活動へのすそ野を広げ、自主的・主体的な取組への移行を目指した新たなスタイルに切りかえることにした。
- ・同協議会は、平成 30 年度から「いざというときに役に立つ準備を！」として矢田学区の特性に応じた具体性のある「避難行動計画」を策定し、地区の住民による主体的な運営を行っている。防災・減災の取組は、災害対策委員（町内会長）の集まりである「地域防災会議」と、避難所運営リーダー等により構成される「防災企画会議」の 2 つの会議体を中心に推進されている。



防災倉庫の備蓄品を使おうデーちらし

- ・「防災倉庫の備蓄品を使おうデー」は、「防災企画会議」が企画・運営するイベントである。住民主体で避難所を運営するために、まずは倉庫にあるものを誰もが使えるようにするという目的で年 3 回行っている。本イベントでは、防災倉庫にあるものをメンテナンスもかねて使用し、使ったことのない人にも使ってもらおうようにしている。参加した住民から、防災備蓄品を、地域のイベント等でも活用したいと言われるようになった。今でも、発電機と照明を矢田祭（盆踊り）で活用しており、無線機の活用も計画している。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・上記取組以外にも矢田公園や矢田コミュニティセンターを中心に、各種訓練やさまざまなイベントも開催している。
- ・例えば、矢田小学校と矢田中学校に「避難所表示板」を設置する取組を行った。児童生徒が、学校生活を送る中で日常的に避難所表示板を目にすることで、将来、地域を担う児童生徒への啓発となっている。また、避難所として使う際は、地域住民へ避難所の案内板にもなる。保護者も学校に出かけたときに目にするようになるので、避難所という非日常のものが身近になる。何より、地域住民が目にしたとき、自分で避難スペースにたどり着けるように工夫した。
- ・また、地域防災力の強みと弱みを洗い出し、分析表にまとめ災害時の行動ルールを策定した。これは、住民がまち歩きをし、地域内の危険な場所や安全な場所を確認し発表した。
- ・さらに、地域住民の主体性を重視し、学区の団体に入っていないなくても参画す



防災安心まちづくりニュース

国土強靱化

ることができる仕組みを整えた。地域住民が楽しいと思えることを、力を合わせて行うことが、まちづくりや防災意識の向上につながると考えている。そのため、住民誰もが参加できるような会で、話し合いを重ねながら取組を進めることを重視している。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・「防災倉庫の備蓄品を使おうデー」は、今後も継続的に開催し、多くの住民に参加してもらえるようにしていく。
- ・災害発災時に、避難所開設をするメンバーが参集できるかどうかはこの避難所でも抱える課題である。そのため、誰が駆けつけても避難所運営ができるように、「避難所チェックシート」の作成を進めている。今後、作成した避難所チェックシートを使って訓練を実施する方向で考えている。
- ・また、定期的に防災講座を実施することで、住民の防災へのさらなる啓発を図っていく予定である。2023年2月に避難所、在宅避難のときのトイレ問題についての講座を実施した。令和5年度は食、住環境、長期の避難所対策等の講座の開催を予定している。

4 周囲の声

- ・必要なことなので、今後も実施してほしい。実際にやらないといざというときには対応できない。多数の住民の参加が必要であると考えている。今回参加して、これまで何もしていなかったことに気付かせていただき、ありがとうございました。これを期に防災について考えたいと思う。(訓練参加者)
- ・こどもたちがイキイキしていて、見ているほうも楽しかった。予想を超える人出で驚きました。独自の謎解きが本格的で楽しかったです。(イベント参加者)

担当者の声

- ・災害に備えた人と人とのつながりは、日々の取組の中で芽生える。その芽をそっと両手で包み、みんなで育てていきたい。一人ひとりのつながり、一人ひとりがむすびあうために。私は防災・減災の肝は、そこにあると信じている。「楽しくなければ人は集まらない」、実施主体のメンバーも楽しみながら行っている。このワクワクをぜひ皆さんへ届けたい！

問合せ先

矢田学区連絡協議会
TEL : 090-8471-5494 E-Mail : yadagakku@gmail.com

動画



サイト URL

